

令和5年9月14日
九州地方整備局
佐伯河川国道事務所
大分河川国道事務所

記者発表資料

国道57号大野竹田道路 開通5年後のストック効果

○大野竹田道路は、中九州横断道路の一部を形成し、大分市～熊本市間の広域的な連携を図り、沿線地域の産業発展や地域活性化の支援等を目的とする道路です。

○この度、大野竹田道路の開通からおよそ5年が経ち、物流や地域活性化など、沿線において現れている開通効果をお知らせします。

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって継続的に中長期的に得られる効果

<沿線の交通事故が減少し、地域の交通安全性が向上>

大野竹田道路の整備により、交通分担が図られ、**死傷事故件数は整備前と比べ約9割減少**。

<地域を支える農業の販路拡大や関連企業が進出>

竹田市の夏秋トマトは、大野竹田道路を利用し、大分市の大分青果センター経由で出荷することで、**九州外へ販路が拡大**。

大野竹田道路の整備に伴い、沿線地域へ農業参入企業が進出しており、**新規雇用が拡大**。

<未来へつなぐいのち溢れる移住施策を支援し、移住者が増加>

沿線自治体は、交通利便性の高さを活かして、**IC付近への宅地開発を推進**。

沿線自治体の移住施策や大野竹田道路の整備に伴い、**移住者はH26年と比べて約2.4倍増加**。

<安静で迅速な救急医療活動を支援>

大野竹田道路の整備により、急カーブによる**急ハンドル発生回数が約8割減少**し、救急患者の負担が軽減。

<災害に強いネットワークの構築>

法面崩壊等による旧国道57号通行止め時に、大野竹田道路は**代替路として機能**。

【問合せ先】

国土交通省 佐伯河川国道事務所

技術副所長(道路) 那須 一彦 (なす かずひこ)

工務課長 塚原 勉 (つかはら つとむ)

TEL 0972-22-1880(代表)

国土交通省 大分河川国道事務所

技術副所長(道路) 甲斐 猛 (かい たけし)

計画課長 梶尾 辰史 (かじお たつし)

TEL 097-544-4167(代表)

大野竹田道路の概要

- 大野竹田道路は、高規格道路中九州横断道路の一部を形成し、豊後大野市を起点として、竹田市に至る延長12.3kmの道路です。
- 大野竹田道路の整備により、大分市～熊本市間の所要時間が約9分短縮し、大分～熊本間の広域的な連携が図られ、沿道地域の産業発展や地域活性化等に大きく貢献しています。



※1 大分市（大分市役所）～熊本市（熊本市役所）間の所要時間
 ※2 大野竹田道路開通前は犬飼大野間開通済として算出
 ※3 R3年全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度で算出

▲ 開通前後の所要時間の比較

凡		例	
中九州横断道路	開通区間	(2車線) (暫定2車線)	開通区間 (4車線) (2車線)
	事業中区間	(4車線) (2車線)	事業中区間 調査中区間
	調査中区間	○ ○ ○	○ ○ ○
			国 道



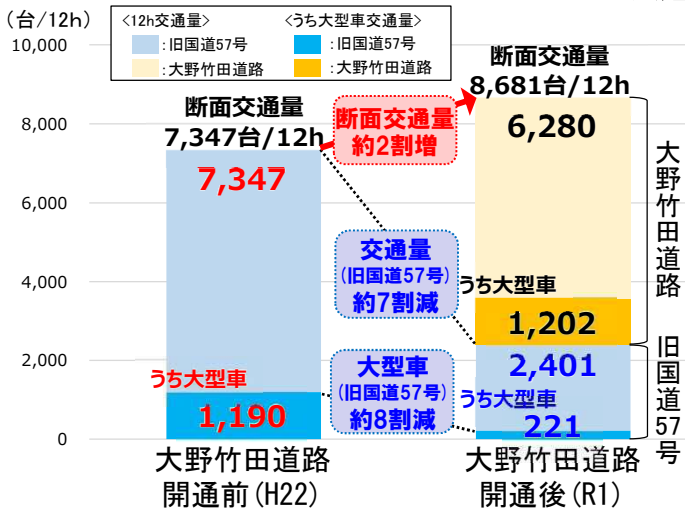
凡		例	
中九州横断道路	開通区間	(2車線) (暫定2車線)	開通区間 (4車線) (2車線)
	事業中区間	(2車線)	事業中区間 調査中区間
	調査中区間	○ ○ ○	○ ○ ○
			国 道
主要地方道			
一般県道			

沿線の交通事故が減少し、地域の交通安全性が向上

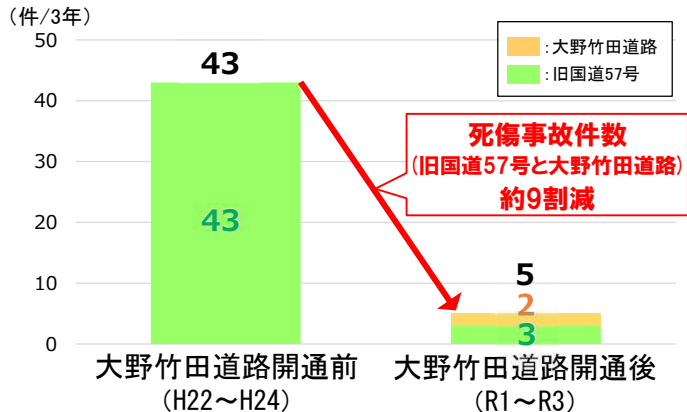
- 大野竹田道路の整備により、旧国道57号の交通量が減少し、特に大型車交通量は約8割減少。
- 大野竹田道路と旧国道57号をあわせた断面交通量は開通前と比べ約2割増加しているが、死傷事故件数は約9割減少。
- 交通分担が図られ、旧国道57号の事故減少、地域の交通安全性向上に寄与。



▲ 交通量観測地点



資料：大野竹田道路開通前：全国道路・街路交通情勢調査（H22）
大野竹田道路開通後：交通量調査結果（R1）



※1 旧国道57号（大野IC入口交差点～竹田市会々七里交差点）と大野竹田道路を集計

※2 大野竹田道路開通前：H22～H24合計

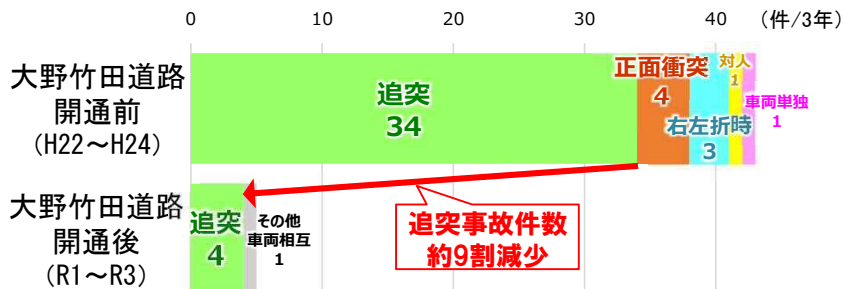
大野竹田道路開通後：R1～R3合計 資料：交通事故統合データベース

▲交通量の変化(大野IC~朝地IC間)



▲ 事故発生状況(H21)【写真①】

▲ 死傷事故件数の変化



※1 旧国道57号（大野IC入口交差点～竹田市会々七里交差点）と大野竹田道路を集計

※2 大野竹田道路開通前：H22～H24合計

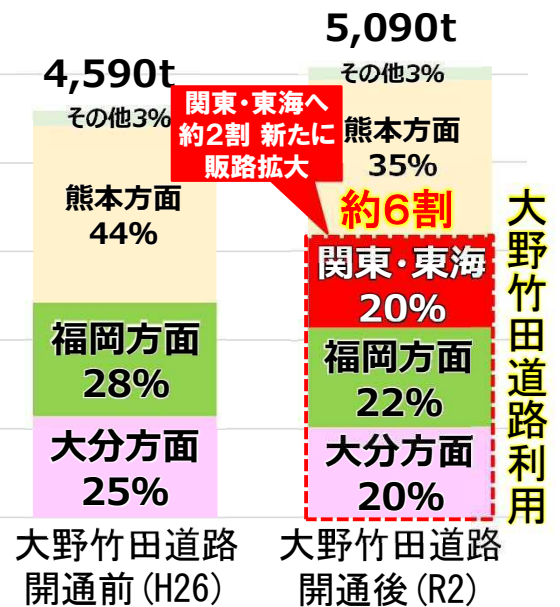
大野竹田道路開通後：R1～R3合計

資料：交通事故統合データベース

▲ 死傷事故種類別発生件数の変化

地域を支える農業の販路拡大や関連企業が進出

- 竹田市の夏秋トマトは、大野竹田道路を利用し、大分市の大分青果センターを経由で出荷することで、九州外に約2割出荷。
- 中九州横断道路の整備に伴い沿線地域へ農業参入企業が進出しており、新規雇用が拡大。
- 農産物の販路拡大、沿線の雇用促進など、地域産業の活性化に寄与。



資料：竹田市提供資料 ※出荷量は作況調査

▲竹田市の夏秋トマトの出荷先割合

- ・大分青果センターは、農産物の効率的な物流体制構築のため、大野竹田道路を含む中九州横断道路の開通を見越して設立されました。
- ・大野竹田道路を利用することで、大分青果センターまでの所要時間短縮や品質維持が確保され、竹田市の夏秋トマトの本州への輸送が可能となりました。

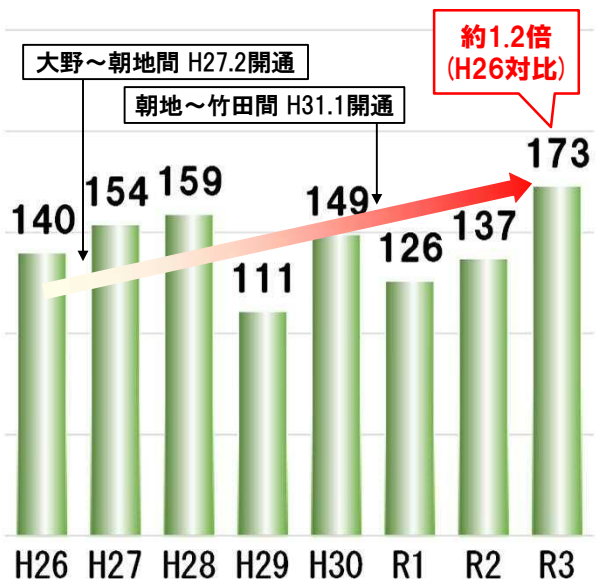
資料：大分青果センターヒアリング (R5. 5)



▲農業参入企業の立地状況



▲農業参入企業数



▲竹田市・豊後大野市の新規雇用者数

未来へつなぐいのち溢れる移住施策を支援し、移住者が増加

- 中九州横断道路が通過する竹田市・豊後大野市は、移住定住に関する施策を推進。
- 沿線自治体は、交通利便性の高さを活かして、IC付近への宅地開発を推進。
- 移住者は、整備前のH26年から約2.4倍と増加傾向にあり、地域活性化を支援。

<未来へつなぐいのち溢れる移住定住に関する施策>

少子・高齢化、過疎化の克服、コミュニティの再生につながる移住、定住の促進戦略として平成21年6月に取り組みを開始し、令和3年6月に「一般社団法人竹田市移住定住支援センター」を設立。移住定住希望者に対しサポート。

具体的な移住支援施策

- ・移住定住者のための交流拠点「城下町交流館「集」」の開設
- ・空き家バンク制度
- ・竹田市移住応援給付金
- ・竹田市空き家バンク登録物件開通事業補助金等



▲城下町交流館「集」



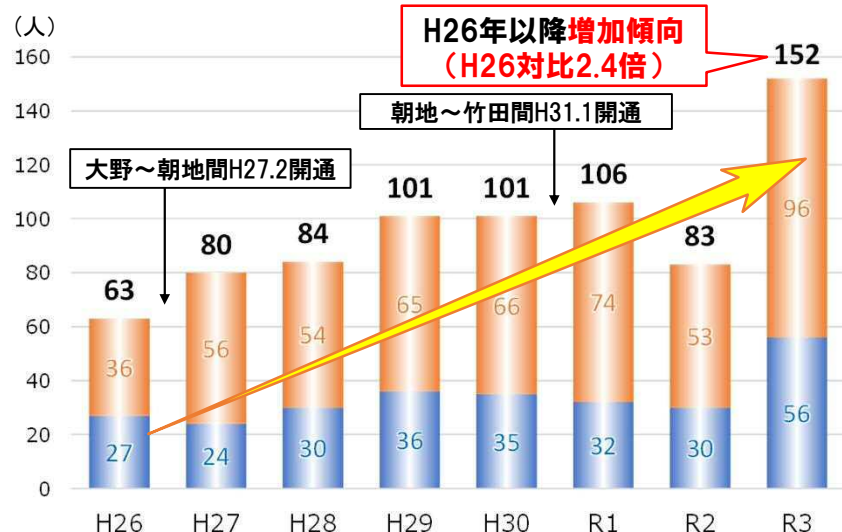
▲竹田市と豊後大野市の宅地開発箇所



※R5.5撮影



※R5.5撮影



資料：竹田市、豊後大野市提供資料

▲新規移住者数

- ・大野竹田道路を含む中九州横断道路の開通にあわせ、**宅地開発を進めてきました。**
- ・大野竹田道路を含む中九州横断道路が開通し、**大分市方面へのアクセス性が向上したことが移住の一因**という移住者の声を聞きます。

資料：竹田市ヒアリング（R5.4）



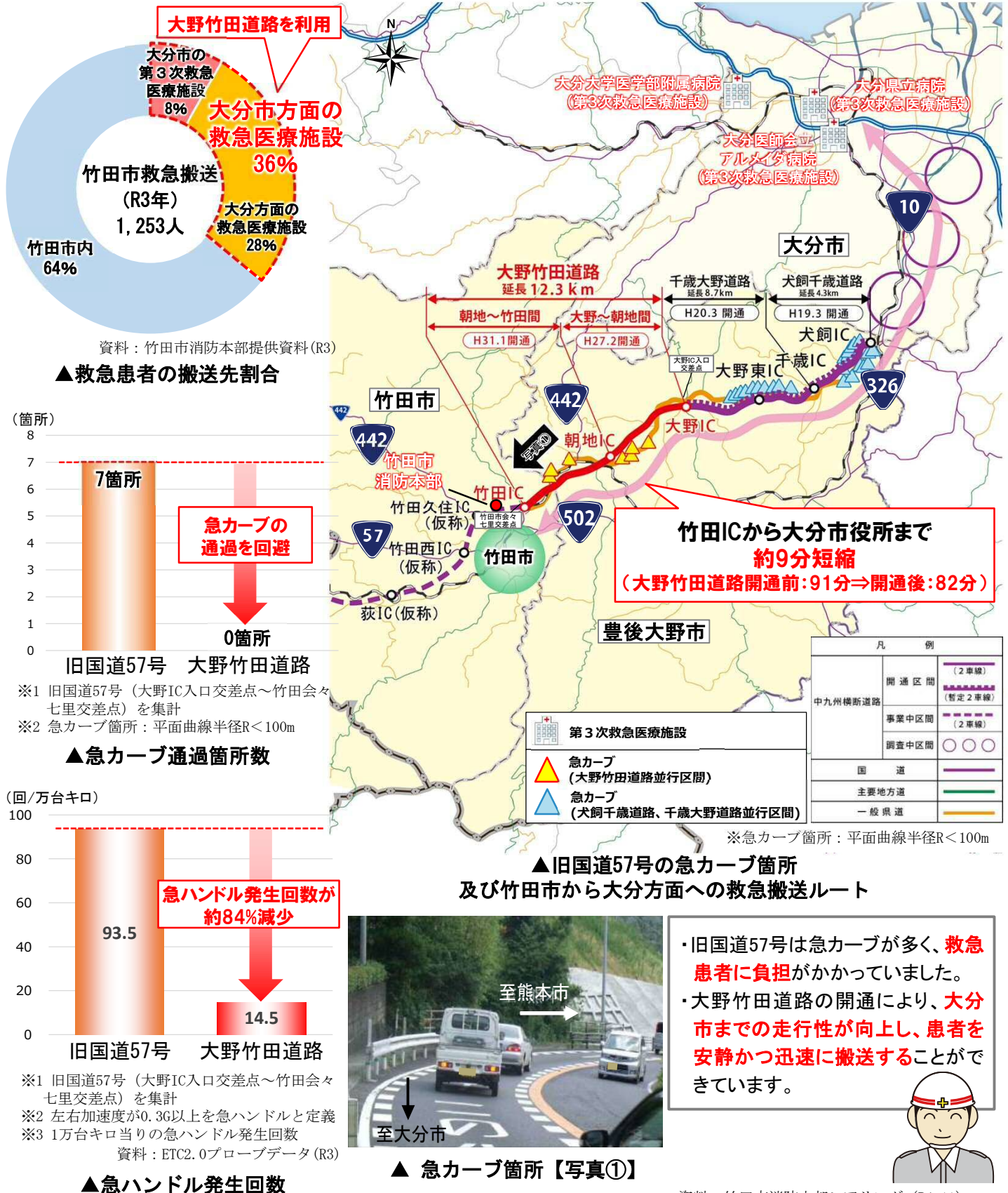
- ・大野竹田道路を含む中九州横断道路の開通により、**大分市方面への通勤・通学に便利という点をPR**できるようになりました。

資料：豊後大野市ヒアリング（R4.1）



安静で迅速な救急医療活動を支援

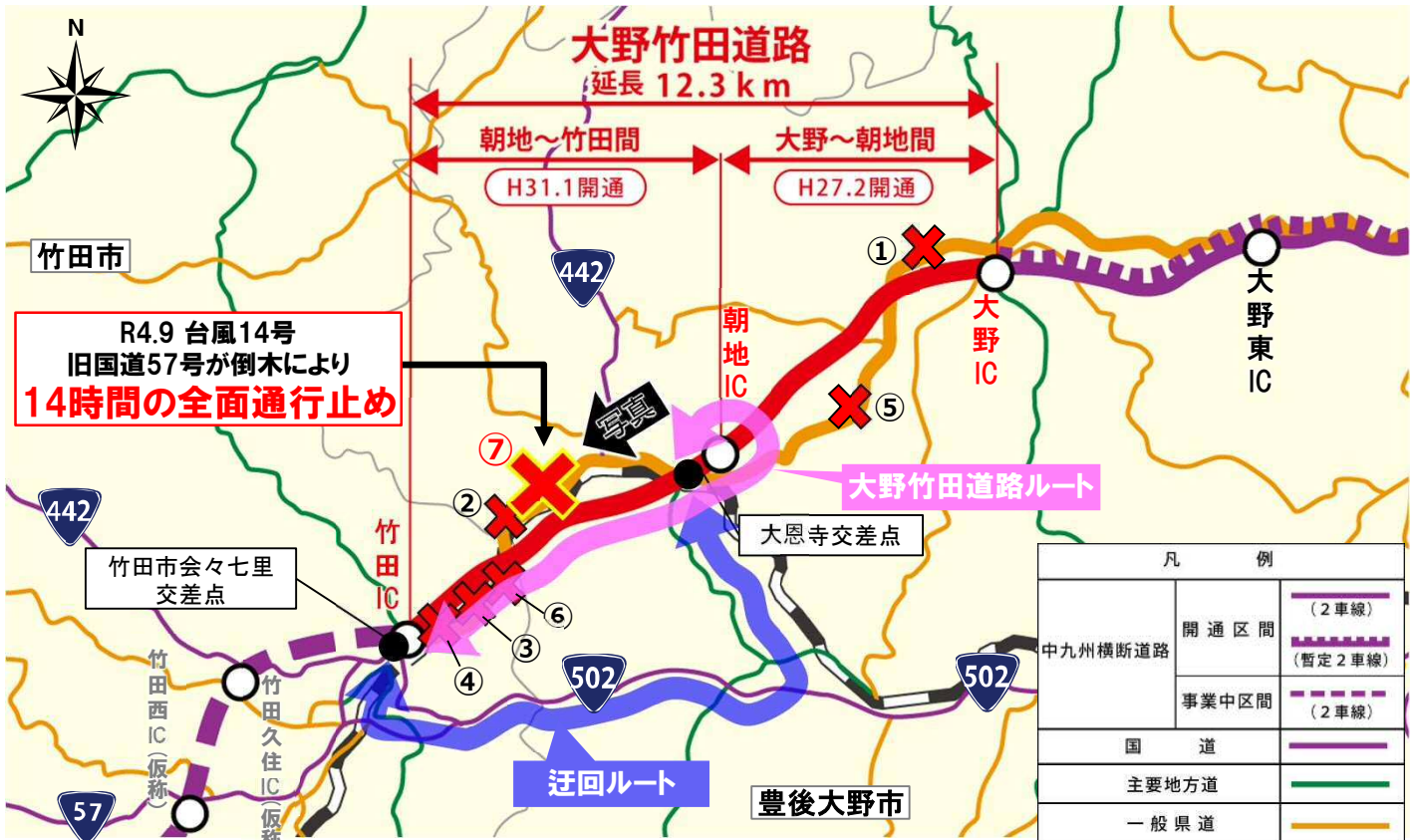
- 竹田市消防本部では、救急患者の約4割を大分市方面の救急医療施設に搬送。
- 大野竹田道路の整備により、急カーブによる急ハンドル発生回数が約8割減少し、救急患者の負担が軽減。
- 搬送環境の改善や所要時間の短縮など、救急医療活動を支援。



資料：竹田市消防本部ヒアリング (R4.11)

災害に強いネットワークの構築

- 旧国道57号は、降雨による法面崩壊や路面冠水、倒木による交通規制や全面通行止めが度々発生。
- 大野竹田道路開通後、通行規制による迂回時間が大幅に短縮。
- 大野竹田道路は災害時における代替路として機能しており、地域住民の安全・安心の確保に奇与。



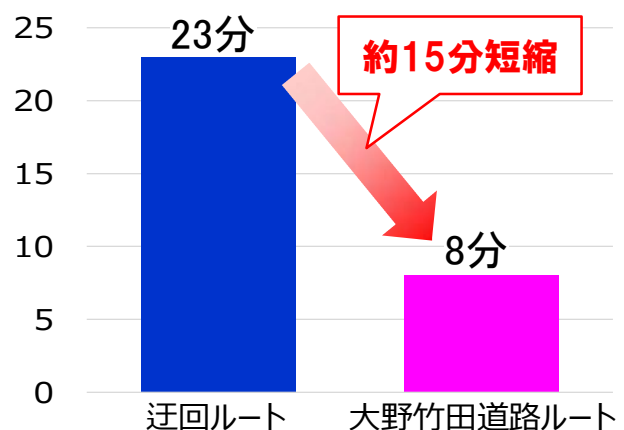
▲旧国道57号の法面崩壊、路面冠水、倒木などによる通行規制箇所及び令和4年9月被災時におけるルート

▼旧国道57号の交通規制状況(平成2年～令和4年)

No	開始年月日	規制時間	規制内容	内容
①	H2.7.2	4時間	全面	切土法面崩壊
②	H2.7.2	8時間	片側	切土法面崩壊
③	H2.7.2	2時間	全面	切土法面崩壊
④	H2.7.2	6時間	全面	切土法面崩壊
⑤	H5.9.3	5時間	全面	切土法面崩壊
⑥	R1.9.30	1時間	片側	冠水
⑦	R4.9.18	14時間	全面	倒木

全面：全面通行止め、片側：片側通行止め
資料：国土交通省、大分県

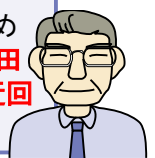
▼令和4年9月の台風14号での倒木による通行止め状況(豊後大野市朝地町朝地)



▲災害時のルート別所要時間の比較

※ 大恩寺交差点～竹田市会々七里交差点間の所要時間
※ R3年全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度で算出

・台風等の影響で、旧国道57号が全面通行止めになると迂回する必要がありますが、**大野竹田道路を代替路として利用できる**ので、**大きく迂回することなく出勤**できています。



資料：沿線企業ヒアリング結果 (R5.8)